

令和2年度 第2回群馬県総合教育会議 議事録

開催日：令和2年11月20日（金）13：45～15：00

会場：群馬県庁6階 秘書課会議室

出席者：【会議構成員】

山本知事、笠原教育長、武居教育長職務代理者、益田委員、竹内委員
平田委員（代田委員は欠席）

【事務局（教育委員会）】

加藤教育次長、村山教育次長、上原総務課長 他2名

【事務局（知事部局）】

田子知事戦略部長、新井戦略企画課長、古仙戦略企画課未来創生室長
他3名

1 開会

2 あいさつ

（山本知事）

- ・今日は第二回群馬県総合教育会議に皆さんにお集まりいただきまして、ありがとうございます。
- ・群馬県でも現在、ウェブ会議が多くなっているのですが、この半年間で、改めて、人間は、バーチャルだけでは生きられないと痛感しました。これからのキーワードはハイブリッドだと感じており、ある年はリアル、ある年はバーチャルのように上手く切り替えができるところが生き残っていくのかなということも感じています。
- ・今年度第一回の会議の後、10月1日をもって青木委員が任期を満了され、10月2日付けで、代田 秋子委員が新たに教育委員に就任されております。代田委員におかれましては、本日、御都合により御欠席と承っております。

3 議事：「第2期群馬県教育大綱（素案）について」

○資料1「第2期群馬県教育大綱（素案）」、資料2「今後の第2期群馬県教育大綱策定スケジュール」を事務局から説明。

○意見交換

（1）第2期教育大綱（素案）について
（武居教育長職務代理者）

- ・教育大綱素案では、基本方針の中で、多様な個性を持つ一人一人の子ども達を誰一人取り残さないと掲げられており、これは、このコロナ禍において、学校も家庭も地域も先が見えず、非常に不安を抱えている中で、一人一人大事に育てるという非常に力強く届くメッセージになると思います。
- ・この中に書かれているキーワードが、「一人ひとりが持つ個性や可能性を伸ばす」と「互いの多様性を認め合い、共に支え合う」という大事な言葉ですが、これが、施策の方向性「豊かな人間性の育成」に直接結びついていくのだと思います。

- ・これから ICT 教育を積極的に推進していく中で、ICT を人間らしく温かく活用していくことが大事だと思います。そのためには、ICT を使う子供たちの心を正しく温かく強く育てていくことが大事にされるべきだと思います。
- ・このことは、学校教育の中では、道徳教育を充実させることだと思いますので、小学校、中学校は新しく教科になった道徳の時間を中核にして学校全体で指導できますし、道徳の時間が中核だと、指導場面が焦点化されるし、より指導が推進されやすいと思います。
- ・高等学校においても、公民や特別活動の時間を中核にして、学校全体を通して道徳教育を充実させるという方向性が出ていますので、どの学校にも道徳教育推進教師という先生がいらっしゃるはずで、これらの方の力を充分活用させていただいて、基本方針に直結する豊かな人間性育成を推進していけるとよいと思っています。
- ・それから、人権教育ですが、自分と他人の大切さをそれぞれ認め合って、それが具体的な行動に表れるようにしていく教育だと思っています。教育の中でも大変重要視している項目であると考えています。
- ・いじめ防止の教育を学校はこれからも続けて一生懸命やっていくと思いますが、人権教育を充実させることによって、やりやすくなっていくのかなと思います。ただ、家庭や社会の中では虐待とかセクハラとかパワハラとか、様々なハラスメントが横行しているのが現実だと思います。
- ・人権意識の向上というのは教員にとっても大事だし、家庭においても大事だし、地域においても大事なことであって、子供たちの周りには大人が人権意識を持てるようにしていくことが大事なことになるのかなと思います。このため、人権教育は、学校教育全体で行うのはもちろんですが、家庭教育・社会教育でも行うべき教育だと思います。
- ・社会の大きな変化の中で、自分で考え、変化の波にのまれず、冷静に自ら新しい領域を切り拓いていこうとするたくましい子どもを育てようとする始動人の考え方は、今のコロナ禍において、本当にふさわしいと身にしみて感じます。
- ・学校行事が次々と中止になる中、ある学校の中学生在が自分達なりに考え、区切りを付ける行事を企画して行動したという話を学校関係者から伺いました。コロナだからと諦めるのではなく、新たな方向を切り拓いている子供たちが出てきたということで、まさに始動人が育ち始めていると、うれしく思いました。
- ・そんな中、ICT 教育の活用はますます重要になってくると思いますが、その活用になかなか積極的になれない先生方もいるということも聞いています。
- ・どちらかというと、今まで黒板とチョークで確かな学力を子ども達に定着させてきたベテランの先生達が躊躇しているのかもしれませんが。そんな授業力のある先生とタブレット世代の若い先生がタッグを組めば、研修に多く時間をとられることもなく、一緒に使っていく中で、ICT 教育を推進していけるのではないかなと思います。
- ・授業力のある先生は、今までも付箋を使ったりホワイトボードを使ったりしていろいろ工夫されてきた中で、それが一瞬にしてできるタブレットの便利さや手軽さは使ってみると実感できると思います。ベテランの授業力と ICT 活用を合体できたらと考えています。しっかりした授業ができる先生が ICT 機器を使いこなせるようになっていくことで、より深い学びが可能になると考えています。

(益田委員)

- ・新・総合計画ビジョンでは、群馬で育った始動人が群馬に根付き、更に群馬県を発展させていくための教育イノベーションがこれからの教育政策の一丁目一番地と位置づけられていると感じており、私もそのとおりだと考えます。

- ・私の所属する群馬大学共同教育学部の学生達は群馬県出身が多いのですが、群馬に根付いており、他県の教員として出て行く学生はあまりいません。埼玉や茨城、栃木出身の学生もいますが、群馬県に根付いています。
- ・このような学生達と日常的に接している中で、彼らはどうして群馬というところを意識し、愛して、自分の一生を捧げようと感じているのかと考えると、群馬県には、都市の利便性や楽しさに勝るものがあり、それは自分が受けてきた学校教育、あるいは地域社会の教育ではないかと思うことが多々あります。学校教育の中での豊かな体験や記憶が、自分がこの地域で生きていきたいというものにつながっているのだと思います。
- ・やはり、群馬の学校で受けた豊かな体験とか記憶を私たちが残していつてあげることが、学校教育にとって大事で、これがまさに始動人育成に向けて、重要な「信頼される学校づくり」の根幹になっていると考えています。
- ・次に重要と考えるのが、「個別最適な学び」と「協働的な学び」という言葉です。ある学校の校長先生とお話をしたら、「個別最適な学び」という言葉は学校現場にも浸透しているとおっしゃっていました。
- ・大綱素案の中に、「主体的・対話的で深い学び」という記載があります。このことも今回の学習指導要領の改訂を受けて、学校の教員で知らないものはないと言うぐらい大変有名な理念として学校現場に浸透してきています。
- ・こういった中で、先ほどの校長先生は、「対話的な学び」と「個別最適な学び」というのをどのように結びつけばいいのか少し迷いをお持ちだと、私は感じました。
- ・私は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を両輪のごとく機能させていくことが大切ではないかと考えています。子ども達は、人との対話の中で自分の意思を決定していく。自分の意思を磨いていくのは、やはり人との関わりの中で磨いていくのだろうと感じたところです。
- ・また、大綱素案の中で、ICTリテラシーの育成ということを掲げています。私は、デジタル社会の中で生きていくということに、ゴールはないのだろうと思っています。つまり、更新され続けていく、その発展していく中に投じていく人材や予算が重要になり、未来への投資になるのではないかと改めて考えているところです。

(竹内委員)

- ・これから導入される一人一台のパソコンについて、メリットは充分分かっていますが、あえてデメリットについて、意見させていただきたいと思います。
- ・まず、導入する際の費用がかなり大きいです。また、子どもはかなり乱暴にパソコンやタブレット等の端末を扱いますので、頑丈かつ防水・防塵な機器でないと壊れる数が多くなると考えています。
- ・機器の使用方法では、生徒だけでなく、教師もよく理解していないといけないので、教師へのICT教育も必要です。
- ・端末機のセキュリティ対策の問題もあります。全機種での暗号化や、可能であれば、使用者の生体認証もしてほしいですが、このような端末導入時の問題があります。また、運用される際には、サーバーと端末の故障が出た場合、誰がどのように対処するのか。例えば、同じ試験問題で特定クラスだけやある特定生徒の端末だけが故障した場合、誰がどのように保証するのかといったアクシデントも考えなければならないと思います。
- ・通信障害の問題や端末の更新・買い換え費用、コンピューターウイルス対策の問題もあります。また、子ども達のドライアイや眼精疲労といった健康問題もあります。端末紛失時の情報流出の可能性などの問題もあります。

- 加えて、画像や動画などを活用することで、わかりやすい授業になりますが、これによって活字離れが進むおそれがあります。
- また、家庭でPCを活用した授業を行った場合に、欠席や早退、遅刻といった事象をどのように処置するか。また、宿題が出た場合に、どのように先生に提出するのかといった問題もあります。
- メリットは多くありますが、コンピュータというのは高速処理を特徴とした道具であり、道具を買ったからといって目的が達成されたわけではありません。道具をいかに使ってコミュニケーションツールにしていくかということを教育面で検討していくことが必要と考えます。

(平田委員)

- 「始動人」というキーワードがとっても素敵だと考えていて、「始動人」というのは特別な子どもが特別な人になるというイメージではなく、これから彼らが進んでいくどの分野においても、自分の頭で考え、自分で情報を集めて、自分で判断して周りを巻き込んで、新しいことをやっていく、新しい価値を創造していくということと理解しました。
- このために、学校として必要なのは、社会に開くということだと考えます。30年前の学校であれば先人から受け継いだ知識を次世代に渡すということだけでもよかったかもしれませんが、世の中はどんどん動いていくので、学校自身も、研究機関や企業、NPOなどの関係団体や地域社会などの様々な主体と連携して、世の中をきちんと見ていかなければならないと理解をしております。
- 様々な主体と連携して、とにかく様々なものを見せて、様々な人たちと協力するということを発達段階に応じて提供する必要があるのだと理解しました。
- 始動人を育てていくためには、学校は社会に開かなくてはならないし、教育委員会も開かなくてはならないし、これからますます知事部局と教育委員会、もちろん社会のいろいろなところとの連携が必要になってくると考えました。
- ICT教育について、新しい教育が始まると、子どもたちも楽しみにしているでしょうし、私も楽しみにしている人間の一人です。
- ICT教育を上手く進めていくには、大事なことは2つあると考えていて、一つは職員室の活性化というのが大事だと思います。先ほど武居先生からお話があったように、ICT教育について、得意な先生とあまり得意ではない先生といて、得意な先生はどんどん進めるけれど得意な先生は全然やらないというのでは、子ども達にとっては不幸です。
- 職員室の中で先生達が共同で得意なことは教えあい、あるいは失敗したことも情報共有していくことをいかに活発に進めていくかというのが、ICT教育を進める一つの鍵だと思います。
- 少し苦手だなと感じている先生や往々にして何か新しい機会が来たときに何か壊してしまうのではないかと怖く思う先生がいると思います。このため、先生方の近くにサポートしてくれる人がいるというのが、ICT教育を進めるもう一つの鍵になると思います。

(山本知事)

- ありがとうございます。4人の先生方の率直な御意見、感謝申し上げます。
- 武居先生からお話しがあった「誰も取り残さない社会」というのは、県で策定している新・総合計画（ビジョン）の基本的なコンセプトとして位置づけています。ビジョンの中では、二つの軸を置いて、「新しい価値を生む力」と「SDGs」です。SDGsの基本は、「誰も取り残さない」ということで、これにあわせて、新・総合計画（ビジョン）やこの教育大綱も作られています。新・総合計画（ビジョン）で目指す20年後の我々

の目指していく社会・教育というのは、年齢とか性別とか宗教とか、国籍などにかかわらず、それぞれの価値観で幸せを目指せる社会です。

- 先ほども少し申し上げたのですが、学校も職場も全てバーチャルではできません。学校もインターネットを利用した通信制のN高のような新しい形式の学校が始まっています。ただ、N高の中でもリアル形式の授業は必須とされているようです。
- 「誰も取り残されない社会」ということに関連すると、デジタル化の推進と規制改革を現政権は一丁目一番地に位置づけています。デジタル化を目指していく上では、デジタル化に取り残される人が出る可能性があります。ただ、日本のデジタル化は、デジタル化により格差が生じるというよりは、皆が恩恵を受け、包み込むような日本的デジタル化を推進していきたいという哲学があると伺っており、その点はすごく共感しています。本県でICT教育を進めていく上でも、そのような一貫した哲学がなければいけないと思います。我々の目指すデジタル化のゴールは日本型デジタル化社会だと思います。それは一言で言うと、誰も取り残さないデジタルデバインドとは逆の世界だと思います。
- 私は、昨年、知事に就任し、一人一台パソコンの導入スケジュールを5年前倒しすることを決断し、今年度中に県立高校に一人一台パソコンの導入をすることとしました。また、県内の35市町村にも、手分けをして導入のお願いにまいりました。結果、大きな時代の流れもあり、全国で初めてですが、県内全市町村と県が、今年度中に一人一台パソコンの導入を行う計画となりました。できれば、BYOD(学生が自己所有のパソコンを学校等に持ち込む)も進めたいと考えています。子ども達が、パソコンを一人一台の文房具として使うようになるのが大事だと考えています。一人一台パソコン導入に係る財政面での支援等も国にしっかり要望していきたいと考えています。
- 始動人輩出を目指し、多様性を認め、多様な人たちが活躍できる社会にすることによって、イノベーションや色々なアイデアが出てくる教育環境を作って、特別ではない人や子ども達からも始動人が出るという流れを作りたいと考えています。
- 群馬県庁の32階にtsulunos(動画スタジオ)を開設し、カフェも入りました。来月には、イノベーションスペースも開設されます。tsulunosでは、毎週、直滑降ストリームという知事の番組を放送しています。番組の後半30分で「一太の知らない県庁の世界」というプログラムをやっています。プログラムでは、県庁職員の趣味と特技を紹介しているのですが、少し前に、車椅子ソフトボールを世界に広げようという県職員が出演しました。彼は、すごい情熱を持っており、とにかく車椅子ソフトボールを世界に広めていこうとしている。こういった人が始動人と考えています。こういった人材をこれから発見していかななくてはならないし、しっかりこういった人を作っていけるようにしていきたいと考えています。

(武居教育長職務代理者)

- 新教育大綱の中では、新しい取組を始めていくようにありますが、中身をしっかりと説明していただくと、今まで群馬県の先人が一生懸命に取り組んできたことの流れに基づいているということがわかりました。例えば、「個別最適な学び」も個に応じた指導というのがずっとあったという流れの中で、また花開こうとしているということがわかり、とても力強く感じました。こういったことも、是非tsulunosから発信していただければと県民の皆さんも理解しやすいと思います。

(山本知事)

- 教育のデジタル化を進める上で、絶対必要だと思うのは、バーチャルだけでは生きられないということです。やはり、学校現場で子ども達がどう触れあうかとか、そういった

検討は、不可欠と考えます。リアルとバーチャルをすぐに切り替えられるハイブリッドな群馬県を目指していきたいと思います。ハイブリッドな社会という点では、群馬県は意外と強みがあると感じています。

(益田委員)

- ・今日は山本知事の熱が伝わってきて、まさに、教室というのはこういうところだなと感じました。リアルな体験をうまく組み合わせていながら、群馬でしかできない大きな体験や感動、記憶を子供たちに積み上げていくのが大切なんだと改めて感じました。

(竹内委員)

- ・サーバーとつなげるときにWi-Fiを使った場合、その費用の負担を誰が行うかという問題もあるかと思っています。

(山本知事)

- ・デジタル化においては、Wi-Fiなどの通信環境がすごく大事です。通信環境の整備も含めて、検討していく必要があると思います。
- ・また、行政改革担当大臣の河野大臣の直轄チームに群馬県職員を1名派遣しておりますが、早速、救急車の高速道路利用の往復無料化を実現してくれました。群馬県のモデルで制度を変えていくという初めてのことです。教育も、全国に先駆けての先進的な群馬モデルを作って、これを広げていきたいと考えています。地方から中央を少しずつ変えていきたいと思っています。

(平田委員)

- ・群馬モデルを発信することによって、県民も自信が持てるし、県民がここに来てよかったと思えるし、外から来る人はもちろん、中にいる人も幸せになることができるので、群馬モデルは、素敵なキーワードだと思います。

(笠原教育長)

- ・今日は皆さんのお考えを直接伺うことができました。いただいた御意見をしっかりと、今後の施策等に反映させていきたいと思っています。

(山本知事)

- ・本日お示した第2期教育大綱の素案については、皆様、御賛同いただけるということですのでよろしいでしょうか。

【了承】

(山本知事)

- ・では、第2期教育大綱素案に、本日の皆様からの御意見もしっかり反映してください。

(新井戦略企画課長)

- ・皆様から本日いただいた御意見と御欠席の代田委員の御意見を反映し、修正した素案について、パブリックコメント及び県議会の議論を経て、最終案とさせていただきます。

(以上)